



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

歯科と睡眠

補綴歯科 科長 馬場 一美

リオオリンピックの代表選考が終盤を迎えてきました。4年後には東京オリンピックです。ところでアスリートが食事やトレーニング方法以外に特に大事にしていることがあることを皆さんご存知でしょうか？それは睡眠です。現在、多くのアスリートが遠征先に自身の睡眠用マットを持参するそうです。睡眠の質が自身のパフォーマンスに大きく影響を与えることを、アスリートたちは体感しているのです。これは何もアスリートに限ったことではありません。われわれ国民一人一人にとっても睡眠は重要です。「歯科病院だより」に歯ではなく、睡眠の記事が掲載されることに驚かれる方も多いかもかもしれません。しかし睡眠という分野でも歯科医療が貢献できることが実は多くあるのです。とくに閉塞性睡眠時無呼吸のスクリーニングと治療です。閉塞性睡眠時無呼吸の代表的な原因は、睡眠時に舌が後方に落ち込み、気道が閉塞されることです。海外での報告ではその有病率は軽度のもので20%、中等～重度のものでは6.6%とされています。残念ながら本邦での大規模な調査は行われていませんが、同程度と想像されます。さらに生活習慣の変化による肥満や、柔らかいものを多く食べる食習慣による後天的な下顎の発育不全の増加により、有病率は今後さらに増加していく可能性があります。睡眠時無呼吸は睡眠の質を悪化させ、日中の眠けや疲労を招き、作業効率の低下に直結します。全身的健康を損なうことも報告されています。その代表例が高血圧、脳卒中、心筋梗塞です。睡眠時無呼吸により引き起こされる夜間の度重なる覚醒により、交感神経が活性化されることがこれらの原因

とされています。いびきも睡眠時無呼吸の前駆症状と見なされていますので、注意が必要です。下顎が小さく後方へ変位している場合や、扁桃肥大や舌が大きいと気道閉塞のリスクが高くなりますが、これらの診査は歯科が専門とする領域です。リスクが明らかな場合には連携している本学の専門外来へと紹介させていただきます。そこで、閉塞性睡眠時無呼吸症候群の診断がつけば、一般的にはCPAPと呼ばれる持続陽圧呼吸療法が行われますが、この治療法はマスクから持続的に空気圧を与え気道の閉塞を防ごうとするもので、患者さんによっては耐えられない場合もあります。また、軽度の無呼吸は保険治療の対象となりません。一方で、歯科的には口腔内装置と呼ばれる器具を用いて治療しますが、この方法は患者さんにとっては受け入れやすく、軽度であっても保険適応です。超高齢社会に突入した我が国において、睡眠の質の向上のためだけでなく、循環器疾患の予防のためにも、今後、口腔内装置の担う役割はさらに大きくなって行くと考えられており、こういった点からも我々は皆さんの健康増進に貢献できればと考えております。(詳細については次ページの教室紹介で解説していますので是非ご参照下さい)



補綴歯科 紹介

「補綴(ほてつ)歯科」というなじみが少ないかもしれませんが、歯科治療における「補綴」とは、歯が欠けたりなくなった場合にかぶせものや入れ歯、インプラントなどの人工物で補うことをいいます。歯を失うと口もとの見た目や咀嚼や発音といった日常生活に必須の機能が妨げられ、生活の質(QoL)が著しく損なわれます。また、全身的な健康へも影響があり、歯が失われて消化器官としての口腔の機能が損なわれると他の消化器官への影響が危惧されます。

昭和大学歯科病院補綴歯科外来は、歯の欠損がある患者さんのニーズに応えるために、昭和大学歯科病院の他の専門外来と緊密に連携しながらメタルレスやデジタルデンティストリーといった最新の治療を提供しています。また、近年では、歯の欠損のみの治療だけではなく、さらなる患者さんのQoL向上のために睡眠歯科治療も行っております。睡眠歯科治療では歯軋りやいびき、閉塞性睡眠時無呼吸の治療やコントロールを歯科的な立場から行います。

本稿では閉塞性睡眠時無呼吸の治療法について紹介します。睡眠時無呼吸の治療では、下顎を前方に出した状態の口腔内装置を装着して就寝することにより、舌の沈下により発生するいびきや無呼吸の防止をすることができます。装置の製作には上下の歯列の型どりと、下顎を前方に位置させた状態でのかみ合わせをとる必要があります。装置の形態には大きく分けて二種類あり、上下の歯が固定されるタイプ(図1)と、装置を入れた状態でも下顎を動かすことのできるタイプ(図2)があります。後者の方が付け心地が良いですが、費用が高額になる傾向があります。

また、医科的な治療法では持続陽圧呼吸療法(CPAP)という、機械から出される陽圧の空気をマスクを介して気道に通す治療法が標準的に適用されますが、患者さんが使用を拒んだり順応でき

ないことがあります。そして、睡眠時無呼吸と診断されても、症状が軽度であればCPAPの保険適応となりません。口腔内装置はそういった方にも適応可能です。また、CPAPと同時に使用することも可能で、そうすることによって、気道に流す空気圧を低くすることもでき、圧力による不快感を軽減することもできます。口腔内装置は持ち運びが容易で、出張や旅行に携帯するのにも便利です。しかし、加療には十分な睡眠の知識のある歯科医師、歯科技工士が当たる必要があります。いびきや日中の眠気で不自由を感じている方は、是非ご連絡ください。皆さんが日常生活で不自由なく食事、会話ができ、そして良質な睡眠を得ることができるようなお手伝いができれば幸いです。

補綴歯科 助教 葭澤 秀一郎



図1. 睡眠時無呼吸用の口腔内装置
(上下の歯が固定されるタイプ)



図2. 睡眠時無呼吸用の口腔内装置
(下顎を動かすことのできるタイプ)



歯科補綴 スタッフ

初めまして、歯科麻酔科の増田と申します。ただいま、歯科麻酔科の医局長をさせていただいております。「歯科麻酔科」と聞いて、皆さんは何を連想されるでしょうか？ 歯科麻酔科って注射(局所麻酔)だけして治療はしないのですか？ と時々質問されることもあります。本コラムのボタンが回ってきましたので、今回は私と歯科麻酔科についてのお話をさせていただきます。どうぞ、おつき合ください。

サブタイトルにも書かせていただきましたが、改めて皆さんは歯医者さんが好きですか？ 嫌い、あるいは苦手と思っている方がほとんどだと思います。私は、歯科治療が苦手な方、あるいはインプラントなどの手術を受けられる方、お口の中に物が入るとオエツとなる方々を対象に、全身麻酔や静脈内鎮静法(鎮静薬を血管内に少しずつ投与することにより、歯科治療中に感じる不安や緊張をやわらげてリラックスした状態で治療を受けていただく方法)を行っております。歯科で全身麻酔なんて！と思われるかもしれませんが、当院での全身麻酔症例は平成25年度587件、平成26年度679件、平成27年度817件と年々増加しています。この他にも、当院には障害や重篤な全身疾患をお持ちの方など、町の歯医者さんでは治療できない患者さんがたくさん来院されます。そういった方々に私の持つ麻酔の知識や技術を応用することによって、安全で快適に治療を受けて頂く、これが私のモットーです。患者さんからの「やっと治療を受けることができました」という感謝の一言が、私の最高の報酬です。

全身麻酔あるいは静脈内鎮静法では呼吸の管理が重要になります。その経験を生かして、関連病院である藤が丘病院で口腔装置外来(閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)に対するマウスピース治療)も行っております。重症OSAS患者さんでは高血圧症は約2倍、虚血性心疾患は約3倍、脳

血管障害は約4倍、糖尿病は約1.5倍、健康な方と比べて発症する可能性が高いと報告されています。口腔装置は睡眠中に使用していただくマウスピースで、下あごを前方に固定し呼吸をするための通り道(上気道)の狭窄を防ぎ、いびきやOSASの症状の改善を図るものです。現在、耳鼻咽喉科睡眠時無呼吸外来と密接に連携を取りながら治療を行っています。今後は耳鼻咽喉科と歯科麻酔科だけではなく、内科・整形外科・歯科口腔外科とチームになって対応していく予定ですのでご期待ください。

歯科麻酔科はあくまで縁の下の力持ちです。歯科の中ではマイナーな存在ですが、これからもオンリーワンの歯科医を目指して取り組んでいく所存です。私事ですが、今年の10月から米国ボストンに留学することになりました。2年間で予定しております。2年後にはパワーアップしてまた皆さんのお役に立てるようにがんばってきたいと思います。



ネパール口唇口蓋裂医療チーム派遣事業に参加したときの筆者



筆者の留学先
(マサチューセッツ総合病院)

就任のご挨拶



7月1日より薬局長を拝命いたしました。薬剤師を取り巻く環境はこの10年間で大きく変わり、日常業務だけでなく薬学部が6年制となったことで教育体系も臨床実習が大きな割合を占めるようになりました。他の附属病院と同様、歯科病院においても薬学生の臨床実習を受け入れております。

薬局では昭和大学ならではのチーム医療を実践し、「患者本位の医療」の理念の本、患者さんへの服薬説明や医療スタッフへの情報提供などを行っております。日本が超高齢化社会に向かうにあたり、これまで以上に社会貢献できる研究、他部署や地域薬局との連携を強化し、更なる医療の質の向上を目指し邁進して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

薬局 薬局長 阿部 誠治

公開講座開催のお知らせ

昭和大学歯科病院では、皆さまにお口の健康を保つのに役立てていただくため、毎年、公開講座を開催しています。皆さまのご参加をお待ちしております。

第19回 昭和大学公開講座

「暮らしと健康」－ お口の健康 －

講演内容

- 1 介護予防と口腔ケア～お口のはたらき～
- 2 認知症について

※演者等の詳細は、9月号に掲載いたします。

日時：平成28年10月15日(土)13:00～15:00

場所：昭和大学歯科病院 1号棟6階臨床講堂

大田区北千束2丁目1番1号

受講予定人数：100名

受講料：無料

受講申込：不要

ただし修了証ご希望の方は下記のいずれかでお申し込み下さい。

◎直接お申し込みいただく場合

昭和大学歯科病院1Fロビー（申込用紙に記載の上、備え付けのポストにお入れ下さい。）

◎メールでお申し込みいただく場合

件名を「公開講座受講希望」とし、氏名、住所、電話番号を入力の上、下記アドレスまでお送り下さい。 E-mail: dh-festa@ofc.showa-u.ac.jp

申込締め切り：平成28年10月7日(金)

なお、ご不明な点がございましたら、昭和大学歯科病院事務課管理係にお問い合わせ下さい。

いちいちごち

お問合せ先：03-3787-1151(代表)

事務課

編集後記

今月から編集後記の欄で口腔機能について紹介したいと思います。口腔機能としてまず思いつくのが咀嚼機能、哺乳・嚥下機能、言語機能です。これらはいうまでもなく重要な機能で、哺乳・嚥下機能については生命維持の根幹となる機能です。しかし口腔機能としてこれらは一部に過ぎません。口腔は生命維持に欠かせない呼吸機能を営み、発熱時、運動時など代謝亢進時には口呼吸は欠かせません。一方、あくびは呼吸機能の補助機能であるとともに「飽き」を表すコミュニケーションツールとしても用いられることがあります(続く)。次回をお楽しみに。

PS 睡眠時無呼吸の装置は歯科病院では口腔リハビリテーション科、補綴歯科で製作しています。

(昨年実績 口腔リハビリテーション科49装置、補綴歯科10装置程度)

(K.T)